

すべては子どもたちのために



小規模校のより良い明日を目指して



子どもを共に育む京都市民憲章

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

平成19年2月 5日(育児ニコニコ笑顔の日)制定
3月13日 京都市会が憲章推進を決議

平成 21 年 3 月

京都市小学校長会
京都市立中学校長会
京都市教育委員会



この冊子は再生紙を使用し、大豆インクで印刷しています。

すべては
子どもたちの
ために

目次

地域の子どもは、地域で育てる！	3
子どもたちの未来をみんなで考える。	4
学校は地域にとつて	5
かけがえのない存在です。	5
学校は、今……。	6
子どもたちのために	8
さまざまな工夫を重ねています。	8
子どもたちは	9
無限の可能性を持っています。	9
子どもたちのより良い教育環境を	10
考えていくにあたつて	10
新しい学校の「かたち」	12
15校の新しい学校が誕生しています。	14
学校はいまも、地域自治活動の拠点です。	14

それは、永年にわたり育まれ、受け継がれてきた
京都の良き伝統であり誇りです。

明治維新後、東京遷都によって衰退の危機を迎えた京都では、「まちづくりは人づくりから」という先人たちの英知と情熱によって、全国に先駆けて64の小学校が創設されました。小学校創設のため、子どもの有無にかかわらず、住民が各家ごとに「竈かまどの数に応じてお金を出し合ったとも伝えられる「竈金の精神」には、「地域の子どもは地域で育てる」という、まさに先人たちの高い志が込められています。

こうした精神は、今も人々の心の中にしっかりと息づいており、地域の学校を大切に見守り、子どもたちを地域ぐるみで育んでいくという様々な営みにつながっています。

例えば、毎日の子どもたちの通学時に、街角で交通安全指導に立っていただいたり、子どもたちの現状や課題を学校とともに考え、課題解決のための行動を共有する「学校運営協議会」に積極的にご参画いただいたり、保護者や地域の皆さんの心のこもった取組が進められています。

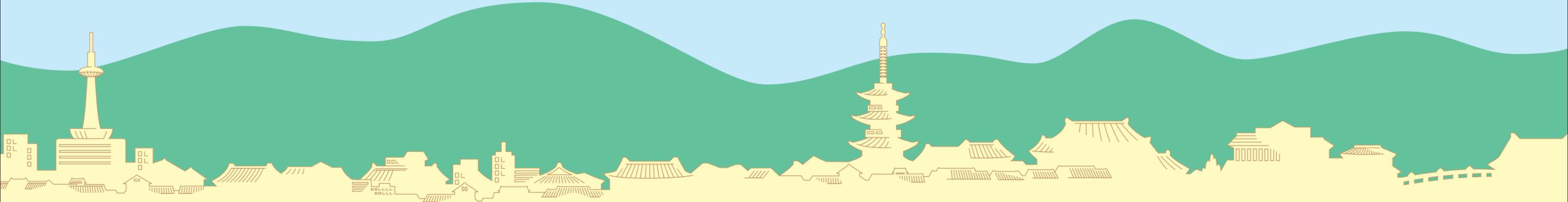
昔も今も変わらない、子どもたちを地域ぐるみで育む京都の良き伝統は脈々と受け継がれているのです。

かつて保護者や地域の皆さんの子どもたちの教育への熱い思いは、学校の小規模化という課題も乗り越え、子どもたちのより良い教育環境づくりを実現する大きな力となりました。

今も学校の小規模化は進んでいます。さらにまた新たな教育課題も生じてきています。

「すべては子どもたちのために」——地域・保護者の皆様方の英知と情熱を結集していただき、小規模校のより良い明日について、そして子どもたちのより良い教育環境について論議いただくよう、お願い申し上げます。

地域の子どもは、地域で育てる！





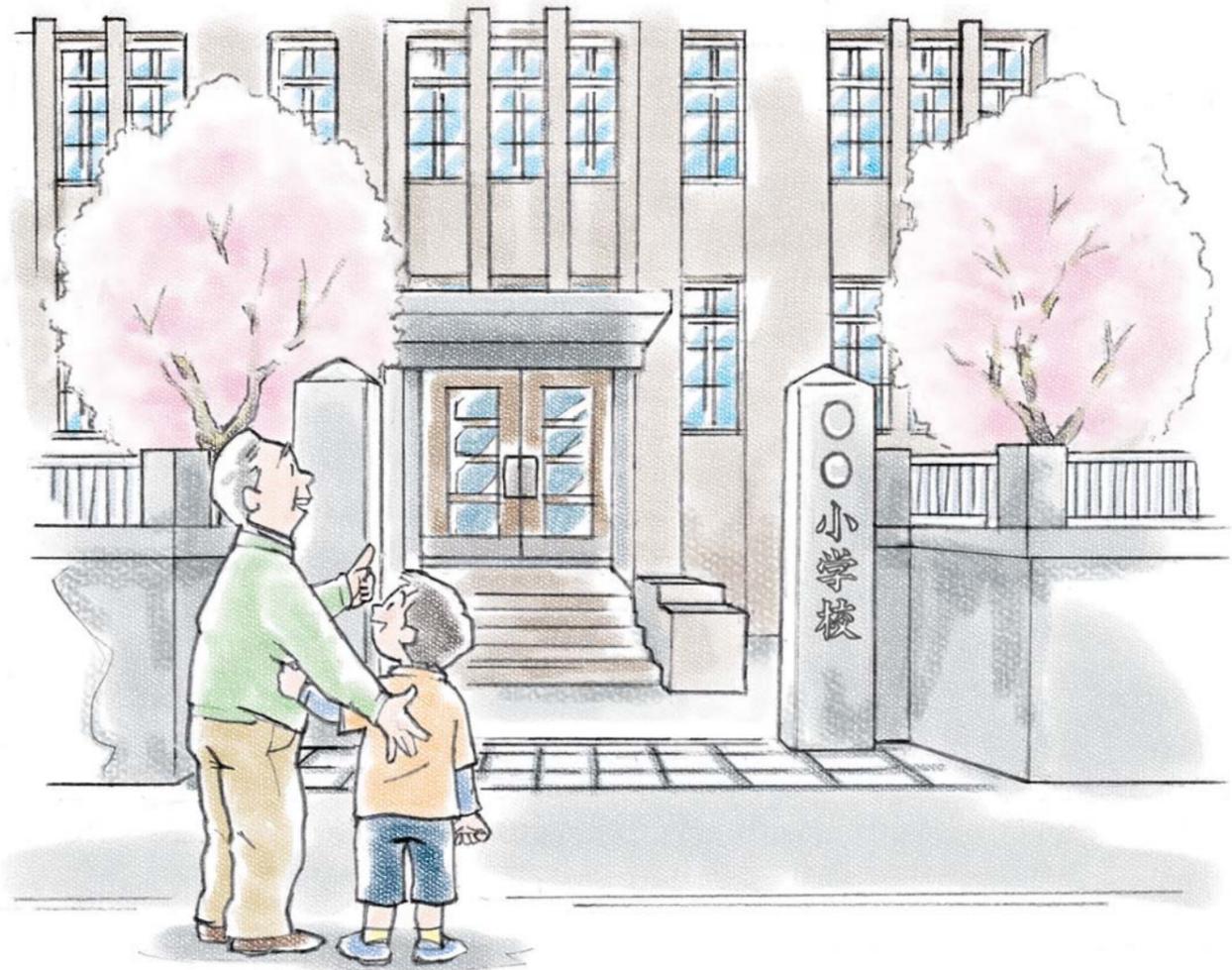
子どもたちの未来を みんなで考える。

ここがおじいちゃんやお父さんの卒業した学校？
そうだよ。でも、人数が少なくなったから、
子どもたちのためにいろんな地域の人たちが相談して、
新しい学校をつくったんだ。

かつて市内中心部で児童数が大幅に減少し、学校の小規模
化が進む中で、多くの地域で子どもたちの教育に焦点を絞った
検討が進められました。

各地域での検討の結果、学校統合により、新しい学校が誕生
しました。また、小規模校のままが良いという意見もありまし
た。いずれも、子どもたちのために真剣に討議され、導き出され
た結論でした。

大切なことは、それぞれの学区で子どもたちのために熱意あ
ふれる論議が進められたということです。
これこそ、京都の良き伝統です。



学校は 地域にとって かけがえのない存在です。

今日はみんなが楽しみにしていた区民運動会。
学校は閉校した後も、地域活動の拠点。
学区のシンボルです。

検討を重ねられた結果、永年にわたって地域のシンボルとして愛
され、親しまれてきた学校の統合を英断された多くの学区があり
ました。

その過程で心配されたことのひとつは、学校がなくなったら学区か
ら子どもたちの声が消え、活気が失われてしまうのではないかと
いうことでした。学区ごとの自治活動は京都の伝統。学校は子どもた
ちの学び舎であると同時に、地域活動の拠点でもあったからです。

統合後、跡地は様々な施設として活用されていますが、どの場合
も以前とかわらず地域の自治活動の拠点としての役割を担い、夏
祭り・区民運動会などの行事が行われ、子どもたちの元気な声が
聞こえています。

学校は、今……。

子どもたちが輝き続ける
学び舎であるために。



子どもたちにとってしっかりとした学力を身に付けさせたい。やさしく思いやりのある人になってほしい。たくましく生きる力を身に付けてほしい。子どもたちの学びに対する願いは尽きません。

一方で、少子化、情報化やグローバル化の進展など、今日の社会状況の変化は子どもたちの教育にも大きく影響し、学校の小規模化に加え様々な課題も生じてきています。

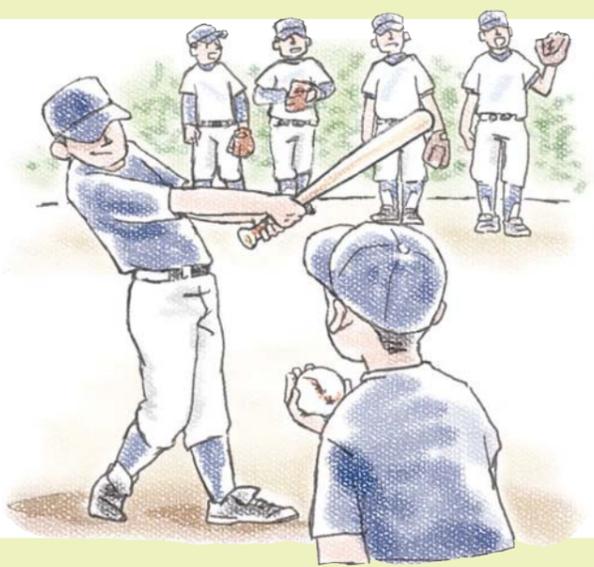
「小1プロブレム」「中1ギャップ」と呼ばれる課題もそのひとつです。小学校入学時には、教科書を使つての授業や約束事の多い集団生活など全く新しい教育環境に順応していかなければなりません。また、中学校進学時にも、「学級担任制」から「教科担任制」へと学習システムが変わることに加え、学習する内容が多くなり、スピードも速くなるなど、学びの環境が大きく変化します。

これらの変化にうまく順応できず、小・中学校入学時には学習面・生活面ともに「つまづき」が起こりやすいと言われています。

子どもたちがあらゆる集団生活の場に適應でき、たくましく成長していく力を身に付けていくことが何よりも大切です。小学校入学時や、中学校への進学時に円滑なステップアップを図り、新たな学習環境の中でいきいきと学べるよう、様々な工夫が求められています。

子どもたちにとって大切な学校に、いま何が必要なのか、子どもたちの毎日に思いをめぐらせ、子どもたちの明日を見つめて、そして子どもたちの目線で考えてみてください。

……学校で輝く子どもたちの姿が、そこから見えるはずですよ。





子どもたちのために

様々な工夫を

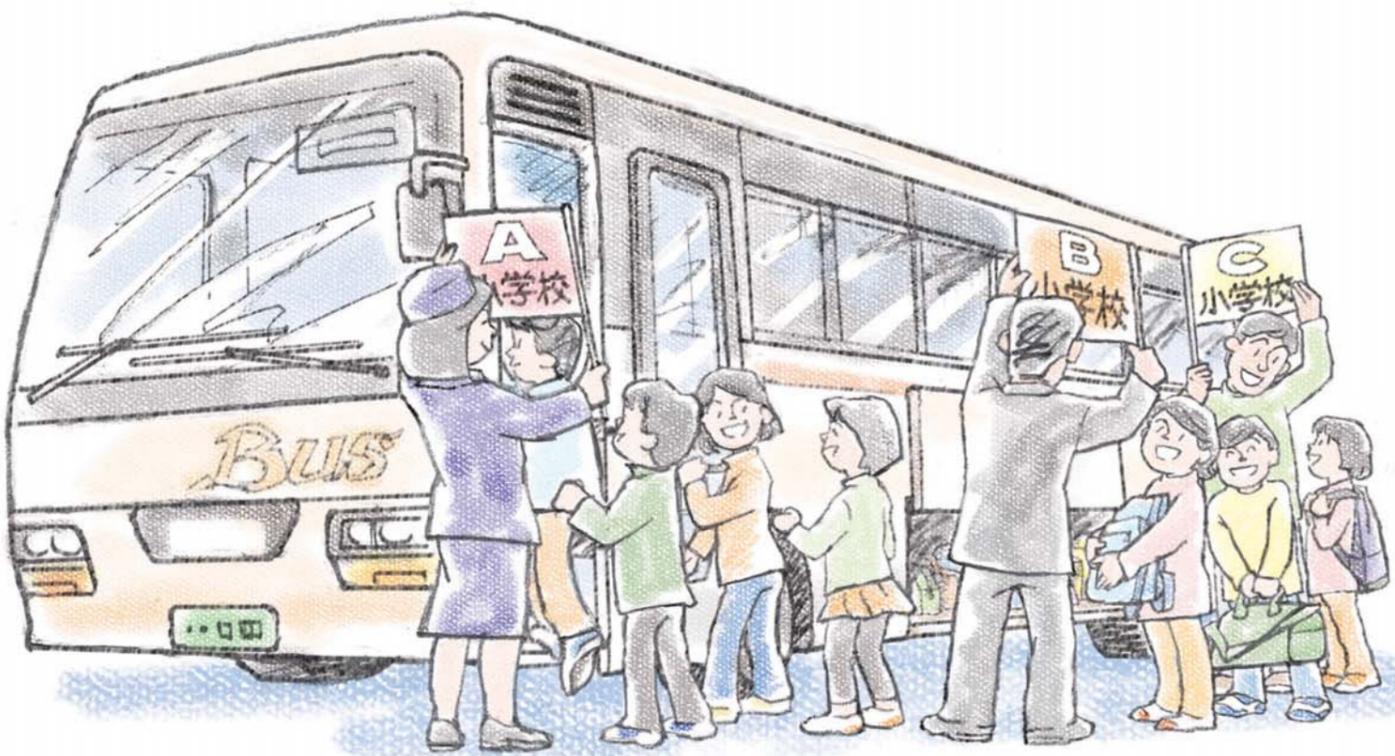
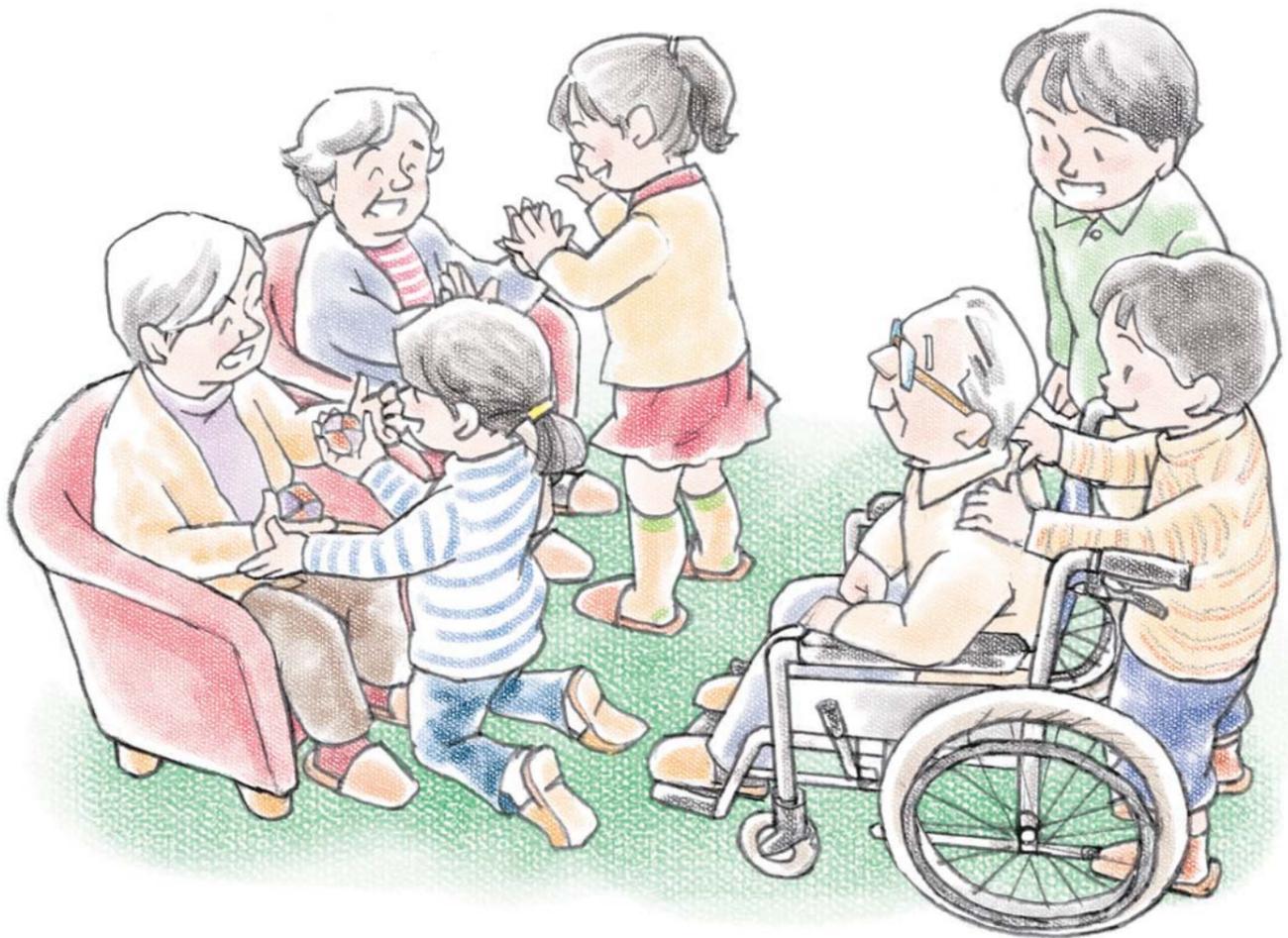
重ねています。

小規模校では、近隣の学校との合同行事など、子どもたちの教育水準を維持するための取組が進められています。

小規模校には良い面もありますが、様々な課題もあります。「子ども同士で切磋琢磨する機会が少ないこと」や、「多人数の集団生活に慣れない」「人間関係が固定化する」など、いくつかの課題が見られます。

このため、学年の枠をこえたタテ割グループでの活動や、修学旅行、野外活動などを近隣の学校と合同で実施するなどの工夫も重ねています。

しかし、これらは毎日行えるものではなく、限界もあります。また、小規模校では「先生の目が行き届く」と言われますが、京都市では独自予算で、すべての小学校1・2年生で35人学級を、すべての中学校3年生で30人学級を実施しているほか、国や京都府の制度を活用して、学習の場面に応じて、小規模校以外でも少人数教育が導入されており、従来とは様変わりしてきました。



子どもたちは無限の可能性を 持っています。



学校で、家庭で、そして地域で、子どもたちの姿はどのように見えていますか？子どもたちにとって、いま何が大切なのでしょうか……？

まずは、家庭や地域、学校での様々な子どもたちの姿をしっかりと見つめることです。授業中の真剣なまなざし、友だちと遊ぶときの元気な姿など。また、お年寄りとの交流ではやさしい笑顔も見えます。いろいろな表情や姿を見せる子どもたち。

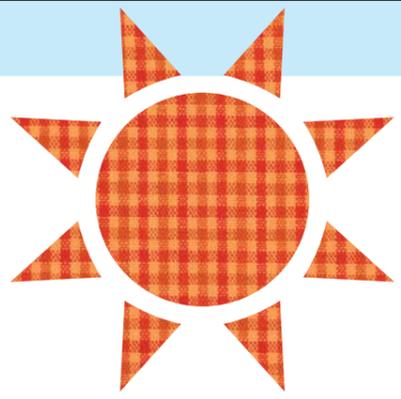
子どもたちには私たち大人がまだまだ知らない姿があり、一人ひとりが無限の可能性を持っています。

かけがえない子どもたちの可能性を伸ばしていくために、私たち大人の果たすべき役割は極めて大きなものがあります。

私たちは今、子どもたちのために何ができるのでしょうか？何をしなければならぬのでしょうか？

まず、子どもたちの教育のことを、学校のことをみんなで一緒に考えることがとても大切です。

子どもたちのより良い教育環境を 考えていくにあたって



活気 切磋琢磨

小規模校での授業の特徴は？

最も大きな特徴点は、人数が少ないため、子どもたち一人ひとりに先生の目が行き届くことです。
一方で、クラスしかないためクラス替えができず、友だち関係が固定化し、いったん人間関係がこじれると修復に時間がかかるということや、「算数は〇〇さんが一番」といった序列が得意やすいなどの課題があります。

授業では積極的に手を挙げなくても発表の機会が得られます。これは先生の目が行き届くことによる特徴のひとつです。しかし、どうしても受け身になってしまう、教育が目指す「自立」につながっていくのだろうかという不安もあります。

多人数での学習活動の中で、より多くの友だちの意見を聞いて、色々なもの見方や考え方を知り、多角的な視点や新しい着想を得るなどの機会にも恵まれません。

運動会などは…

運動会では、様々な競技に出ながら、準備や後片付けにも、いくつもの役割を分担するので参加意識が高まります。ただし、競技に参加しているか準備をしている子どもがほとんどで、声援を送る子どもは少なくなってしまうこともあります。

学習発表会などにも共通する問題です。多くの声援や励ましの中で、大きな感動や達成感を体験することが少なくなってしまういかねません。

部活動では…

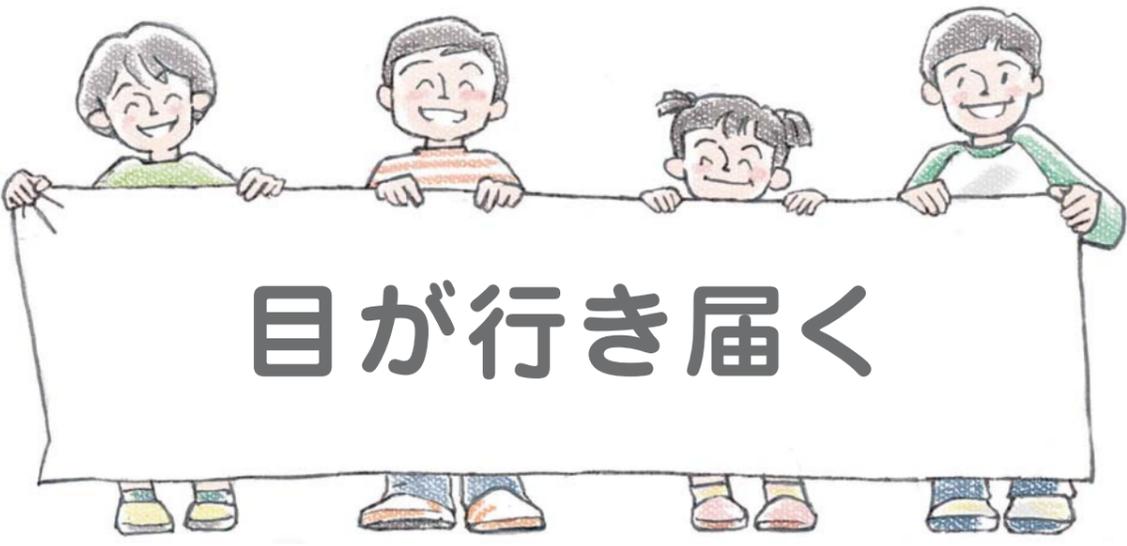
中学校では、人数が少ないと設置できる部活動の種目が限られます。部員が少ないため互いに競い合わなくてもレギュラーになりやすい面はありますが、子どもたちにとっては好きな種目で楽しく活躍できることや、努力してレギュラーに選ばれることが大切なのでは…。

子どもたちが希望しても、新しい部をつくれないうのが、小規模校の大きな悩みのひとつです。

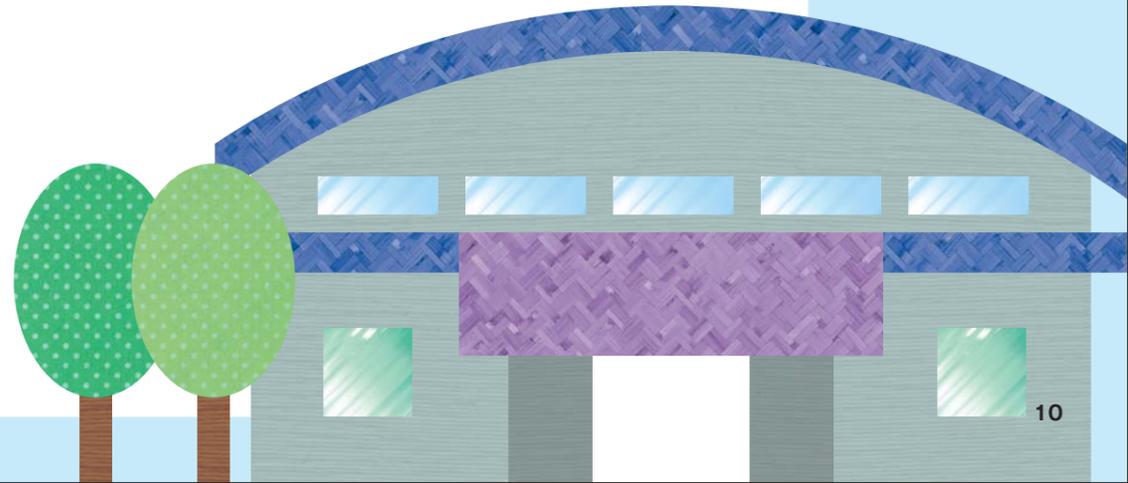
「大きな声を出さなくても言いたいことが伝わり、分かってもらえる」「静かな中で落ち着いて勉強できる」「集団としてまとまりやすい」といわれる小規模校。

ただ、集団は単なる数の集まりではありません。多くの個性が集まる中で、刺激し合い、励ましあって、一人ひとりがより大きな力を発揮できます。ある程度の規模があつてこそ、社会規範やコミュニケーション能力も身に付きやすいと言えます。

多くの友だちと出会い、互いに切磋琢磨する中で、いい意味で競い合い、お互いの力を高め合っていくことは、子どもたちがたくましく成長していく上でとても大切なことです。



目が行き届く



新しい学校の「かたち」

様々な教育課題に対応するため、京都市では子どもたちのより良い教育環境の実現を目指して様々な「かたち」を創造しています。

ここでは、新しい学校の「かたち」のいくつかを実例をもとにご紹介します。



統合による適正規模校



洛央小学校

学校統合によって適正規模となり、校舎を新築し、学校と保護者、地域がともに手をたずさえ、京都の教育をリードする先進的・創造的な取組を進めています。文部科学省や京都市教育委員会の指定を受けて、様々な教育研究活動にも取り組んでいます。また、お祭りなど、地域の行事の活性化に、子どもたちも大活躍しています。

既設校の連携による小中一貫教育



西院小学校 西院中学校



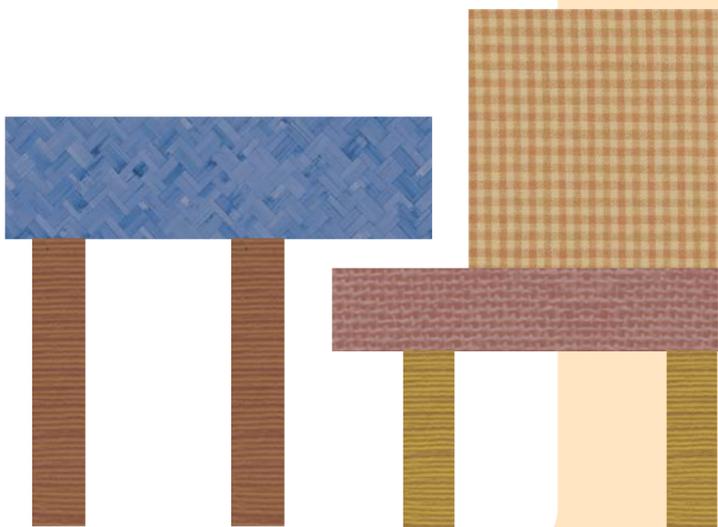
現行の小・中学校のまま、校舎も既存施設を活用して、小中連携の取組を積極的に進めている学校です。主に、小学生が中学校の部活動を体験したり、中学校の教員が小学生を指導したり、さらには小学校と中学校の教員が一緒に、授業や教材開発、指導方法の工夫などを行っています。

施設一体型・小中一貫校

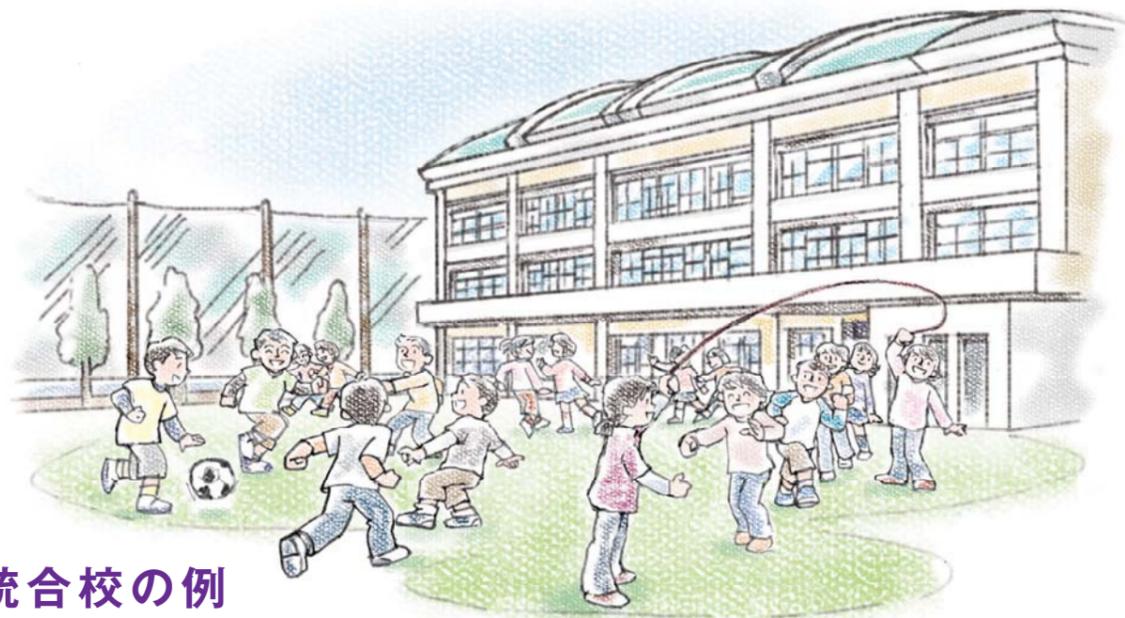
本格的な小中一貫教育を推進する全く新しいタイプの学校として平成23年4月に開校。9年間を通じて、子どもたちの発達段階に応じた教育活動に効果的・効率的に取り組む体制が、ソフト・ハードともに整っています。中1ギャップの解消はもとより、小学校か

ら中学校までの一貫した英語教育の導入をはじめ、新校舎の先進的な教育設備の活用を通して、「読解力」「探求心」を養い、「知を究め、質の高い学び」を創造。

開晴小中学校



15校の新しい学校 が誕生しています。



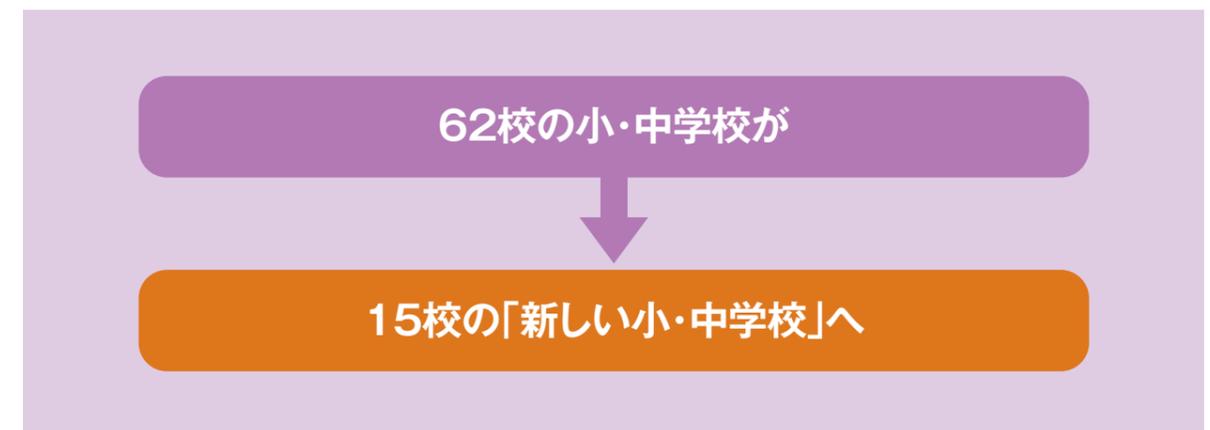
統合校の例

豊園小(91人) 開智小(131人) 有隣小(114人) 修徳小(89人) 格致小(103人)	(平成4年度) 洛央小	富有小(175人) 竹間小(145人) 梅屋小(177人) 龍池小(110人) 春日小(84人)	(平成7年度) 御所南小	桃園小(150人) 西陣小(120人) 成逸小(115人) 聚楽小(71人)	(平成9年度) 西陣中央小	城翼中(126人) 柳池中(270人) 滋野中(129人)	(平成15年度) 京都御池中
---	-----------------------	--	------------------------	---	-------------------------	-------------------------------------	--------------------------

※学校名の右側()内の数字は統合前の児童・生徒数を表しています。

これまで(平成20年度まで)に、62校の小・中学校の地元学区で、小規模校問題に取り組んでこられた皆さんから学校統合の要望書をいただきました。

いずれの学区においても、保護者や地域の皆さんが、子どもたちの教育に焦点を絞って、熱心に論議・検討された結果、15校の「新しい小・中学校」が誕生することになりました。



子どもたちのより良い教育環境について、地域やPTAでの検討テーマとして、ぜひ一度取り上げてみてください。

地域やPTA等でお話いただく際には、資料を用意させていただきます。また、学習会等でご質問にお答えしたり、様々な説明をさせていただくこともできます。ぜひご利用ください。

こんな内容について
ご説明させていただきます。

- 小規模校の特徴
- これまでの統合事例
- 閉校した学校の活用
- 小中一貫教育とは
- 学校運営協議会について
- 京都市が進める教育改革 ……など

こんな資料を
ご用意させていただきます。

- 京都市の小中一貫教育(パンフレット)
- 京都市の教育改革(パンフレット)
- コミュニティ・スクール通信@京都(学校運営協議会の情報誌)
- ……などの他、ご検討テーマに応じて
様々な資料をご用意させていただきます。

お問い合わせ先

京都市教育委員会

調査課/222-3772 学校統合推進室/371-2009 小中一貫教育推進室/222-3851

学校はいつも、地域自治活動の拠点です。

また一方で、平成4年に洛央小学校に統合された開智小学校跡地が「学校歴史博物館」として、平成7年に御所南小学校に統合された龍池小学校跡地が「京都国際マンガミュージアム」としてそれぞれ活用されています。

こうした活用をはじめ、統合跡地は、いずれも地域の自治活動の拠点であり続けながら、本市の教育、福祉や文化・観光等の様々な役割を担う拠点施設が整備されるなど、新たな地域のシンボルとして、まちの活性化に大きく貢献してきています。

さらには……

京都御池中学校校舎は、3中学校の地元14学区の地域、保護者の皆さんのご要望を尊重し、中学校と保育所、高齢者福祉施設、オフィス、カフェやレストランなどを併設した全く新しいタイプの複合施設「京都御池創生館」となりました。



学校歴史博物館



京都国際マンガミュージアム



京都御池中学校